

人口減少対策特別委員会

社会減対策について

安田 佳世



アンケート結果から見る上越市の現状

上越市人口減少に関する市民アンケート調査報告書（令和元年9月）を見ると...

上越市の人口の社会減は、主に若者世代が進学や就職のために転出したまま上越市に戻らないことに起因しています。あなたは、この原因は何だと思えますか。

- 1位 希望する仕事がない 43.1%
- 2位 収入が低い 12.5%
- 3位 まちに魅力がない 10.8%
- 4位 都会へのあこがれ 10.2%
- 5位 積雪量が多い 5.5%

上越市若者世代・子育て世代の市民アンケート調査報告書（令和元年9月）を見ると...

- ・「しごと」を選ぶ上で重視する条件は何か。
→労働時間・休日・休暇 56.7%、賃金 54.6%、仕事の内容 37.2%
- ・現在の「しごと」について不満を感じる理由は何か。
→給与の水準 67.3%、職場の雰囲気 29.6%、休暇制度の水準 29.6%
- ・「しごと」に関して、行政や民間団体等に望む取組は何か。
→職場環境や労働条件の改善 38.8%、働く場の確保 17.8%、資格取得の支援 10.8%

社会減対策について

- 上越市においては、10代後半から20代前半の転出が著しい。特に女性においてその傾向が顕著である。
- 一方で、「上越市の転入・転出の動き（創造行政研究所資料「上越市の人口の概況」）」を見ると、女性については45-54歳、65歳以上についても転出超過となっていたり、男女や年代によって転入出の傾向が異なったりするため、慎重に検討していく必要がある。
- 進学や就職、都会へのあこがれなどから、転出数を抑えることは難しいと考える。
- 転出を止めるのではなく、一度上越市外に出て行った人を戻すための取り組みが有効ではないか。
- それに加えて、上越市外出身者の新規の移住を今後も増やしていくことで、社会減への対策としたい。

社会減対策として取り組むべきこと

人生には「住む場所」を考える様々な**タイミング**がある。

進学・就職・転職

結婚・出産・親の介護等

退職・自分自身の老後 など



「住む場所」を考えた時に、「**上越に戻ろう**」と思える、または上越市民が「**上越に帰ってきたら？**」と言えるような...

「**上越が好き！**」と言える取り組みを進めるべき。

(1) 上越ふるさと学習の推進

(2) 高校卒業時に卒業お祝いパックを寄贈

(3) リカレント塾の実施

(1) 上越ふるさと学習の推進

- ・ 幼少期から上越への愛着を育て、「上越が好き！」と思えるような活動や教育を推進する。
- ・ これまでの活動に留まらない、幅広い分野や内容での取組みを支援する。

🌻 上越版のふるさと学習の手引きを作成。「上越ふるさと学習」の定義づけや、実践事例を収集し、紹介する。

🌻 上越市内の小中学校、高等学校、幼稚園・保育園等に対して、「上越ふるさと学習」実施のための予算をつける。

🌻 上越ふるさと学習コンテストを開催する。各学校等の実践を紹介し、情報共有をするとともに、実践の向上を図る。

(2) 高校卒業時に卒業お祝いパックを寄贈

- ・高校を卒業する時に、上越にゆかりのある品物と、上越市で生活することについてのパンフレットを渡すことで、**上越について考える機会とする。**

 市外に転出することの多い高校卒業時に、「卒業お祝いパック」を寄贈する。

 卒業お祝いパックの内容は、上越市産の食材や食品（お米やメイドイン上越産品など）や、上越市で製造している日用品の他に、上越市での生活が想像できるようなパンフレット等とする。

 高校生向けに、上越市に住むことを検討できるようなパンフレットを作成する。現在実施している子育てや福祉の施策なども盛り込みながら、上越市を選んでもらえるPRとなるようにする。その他に、Uターンや移住等、また上越市の情報を得られる繋がりを保てるような情報も掲載する。

(3) リカレント塾の実施

- ・リカレント塾として講座等を実施し、社会人になってからの地元についての学び直し、また地元の魅力を再発見する機会とする。
- ・社会人になってからも、上越について関心をもってもらったり、考え続けてもらう機会とすることで、人生の様々なタイミングにおいて上越に住むという選択肢を考えることに繋げていく。

🌻市外居住者をメインターゲットに、上越の今や、上越の歴史、魅力などを知ってもらえるような講座を行う。

🌻実際に集まって実施できるようになれば、上越市出身者や上越に関心のある人が繋がることのできる場づくりにもなる。

🌻現在ではコロナ禍で講座のオンライン開催も多いため、様々な手法で実施することができる。